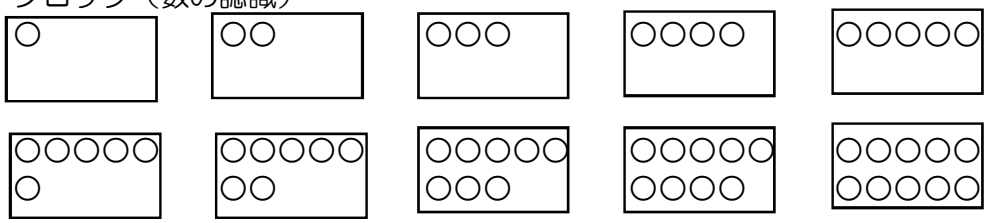
１年生の数と計算

ブロックの並べ方や、操作の仕方、計算の仕方などいろいろな方法が教科書に示されている。いろいろな方法を子どもたちに教えていくのは、混乱させる原因になる。１つの方法を示して、「こんな方法もあるよ。」と示したり、子どもが見つけたりしていけばよい。指導者は、１つの方法を徹底すべきである。それによって、子どもたちが「こういう場合は、この方が簡単である。」とか「こっちのほうが、わかり易い。」とかを判断して見つけていくべきである。指導者が、「基準」を示すことによって、子どもたちがいろいろ考えていくことが大切である。

１．ブロック（数の認識）



※カードにして、裏には数または、ブロックの形を書いて、フラッシュカードとして使うとよい。
※数としてイメージしやすく、念頭操作しやすい。
※場所と形で数を認識させる。すなわち、数を計量数として認識させる。
※順序数については、すでに獲得済みであると考える。
※形で数をおぼえるので、数えなくてよいから計算が速くなる。

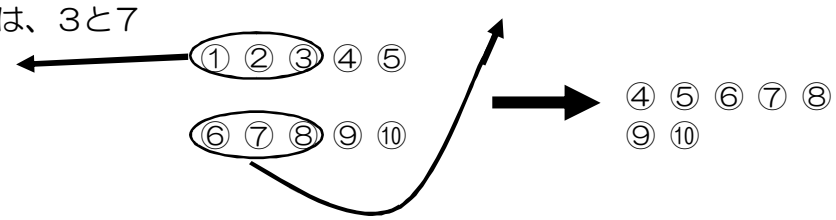
２．ブロック操作

①いくつといくつ

○３と５　①②③　①②③④⑤ → ①②③①②③④⑤

○８は、２と６　①②③④⑤⑥⑦⑧ → ①②← ③④⑤⑥⑦⑧

○１０は、３と７



（動かして、はみ出た部分をうしろへもっていく。）

②１０までのたしざんひきざん

○３＋５　①②③　①②③④⑤ → ①②③①②③④⑤

○８－２　①②③④⑤⑥⑦⑧ → ①②← ③④⑤⑥⑦⑧

３．１０より大きい数

１７　　[１０]　　○○○○○
　　○○

ブロックではなく、カードにする。
カードの並べ方は、ブロックの並べ方に準ずる。

[１０] [１０] [１０] [１０] [１０]

[１０] [１０] [１０] [１０] [１０]

「１０、２０・・・」ではなく、「１０が１つ。１０が２つ・・・」である。
※十進位取り記数法をしっかり獲得させることが重要。

４．くりあがりのあるたしざん ⟶ **加数分解**

４＋９　　①②③④　①②③④⑤　　①②③④①　⑦⑧⑨
　　⑥⑦⑧⑨　　②③④⑤⑥

１０は、　　９は、

４　＋　９
と
６　と　３　　で１３

５．くりさがりのあるひきざん ⟶ **減加法**

１３－５　　①②③④⑤　⑪⑫⑬　⟶　①②③④⑤ ⟵
　　⑥⑦⑧⑨⑩　　⑥⑦⑧⑨⑩
　　⑪⑫⑬

１３－５は、
１０と３にわけ、１０から５をひいて５　　５とのこりの３で８

１３－５＝８
５

ブロックは、
　○○○○○○○○○○　や　○○○○○　○○○○○　がある。
たしざんは、
　被加数分解　両数分解　がある。
ひきざんは、
　減減法　補加法　がある

数によって便利な場合がある。それは、子どもたちに工夫させて、見つけさせればよい。
　「先生のやり方より簡単！」とか「先生のやり方よりわかり易い」とかいう発言を期待したい。
指導者は、子どもたちの判断基準をしっかり示すことが重要である。